

α リポ酸の経口剤について (R体とS体)

- ① 経口剤には自然には存在しない鏡像であるS体の α リポ酸が50%含まれており、そのS体の α リポ酸はアルブミン、 γ グロブリンやインスリンと反応して凝集物を形成して低血糖その他の副作用が発生する。
このため経口剤の内服には注意が必要である。
ラセミ体(R型とS型の混合物)は内服してはいけない。
- ② またS体の α リポ酸は、ミトコンドリアの中でピルビン酸からアセチルCoAへ導くピルビン酸脱水素酵素の活性を阻害するため、S体の α リポ酸は内服してはいけない。
- ③ R体単独では非常に不安定で、光や熱の影響を受けて不規則な架橋を形成して不溶性ポリマーとなるため日本ではR体50%S体50%のラセミ体が販売されているのが現状である。